

開催日時 令和3年11月20日(土) 13:00~14:55
開催場所 犬山市役所2階205会議室
出席者 教育長 滝誠
教育委員 田中秀佳、小倉志保、堀美鈴、渡邊智治、木澤和子
事務局 中村教育部長、山本文化スポーツ課長、江口館長、疇地館長、日比野課長補佐
参加者 24名
テーマ 社会教育に関することをはじめ犬山市の教育に関わる施策について
議事内容 次のとおり

1 開会挨拶

滝教育長より

2 教育委員紹介

各教育委員より

3 文化スポーツ課の所掌事務

滝教育長より説明

4 意見交換会

内容(要約)は次のとおり

参加者

学校の部活動が縮小しているが、今後どのような方向性で進んでいくのか。次の世代へつなげていきたいと考えるが、その手段をどのようにするのか。

田中委員

まだ具体的な答えは出ていないが、将来的には、学校の先生ではなく社会的に受け入れをしていくという方向性である。

渡邊委員

一宮市でも部活動が縮小し、学校の部活動からクラブチーム等へ移管している動きがある。子どもの数が減っていることや新型コロナウイルス感染症の影響等により、スポーツに対する考え方や価値観が変わってきた。

滝教育長

部活動を廃止する場合は、子どもたちやその保護者、地域の皆様に相談し、理解を得るべきである。今後の見通し、方向性については、一気に進めることは難しいが、指導者の体制を整備した上で、将来的には学校から社会体育へ移行していきたい。

参加者

教育委員の理念、社会的使命とはどのように考えるのか。教育委員会は内向き、閉鎖的な組織ではないか。

滝教育長

教育委員会は学校現場と連携し学力を保証すること、子ども達が将来社会の一員として役割を果たすことができるようにすることであると考える。

渡邊委員

公教育のところに私のような民間教育の人間が入っていること自体、犬山市は斬新な考えを持っていると考えている。民間で得たものを犬山市の教育の活性化できる役割を担えたらと考えている。もっとオープンに、もっと効率よくできるように、教育委員会に意見を投げかけていきたい。

木澤委員

本当の市民の声が聞きたいとの考えから自分が委員になっており、市民の生の声を届けることができる立ち位置にいる。学校と市民との橋渡し役であると考えている。

堀委員

今の教育委員会は、私には、良いことも悪いこともオープンであると感じている。様々な立場の委員がいて、様々な立場の意見が交じり合うことはいいことであると考えている。私は特に保育の場の声を聞きたいと考えている。

小倉委員

実際に自分の子どもが小学校に行きはじめてから、学校に対する感じ方が変わった。これを伝えることが私の役割であると考えている。知り得たことは、解決していきたい。

田中委員

誰もが幸せになるための権利があり、それを保証するため、担うために教育委員会、公務員等がいると考えている。

参加者

第5次犬山市総合計画（改訂版）中に目標値の記載がある。目標値85%を達成した場合であっても満足することなく、残りの15%は何らかの不満を持っていることから、その部分にも光をあててほしい。

参加者

「ハラスメント」には、様々な「ハラスメント」がある。問題が生じたときに内向きではなく、学校生活の中でも悩み苦しんだ子どもたちに即した対応をしてほしい。

滝教育長

後ほど個人的にお話をうかがう。パワハラもセクハラも許しません。

参加者

市民文化会館の在り方について、十分な活用がされているのか、例えば広域化についても考えるべきではないか。

滝教育長

貴重な意見として承る。

参加者

犬山市の「文化」について、外部の方から犬山城、如庵、犬山祭、古墳等のことをよく言われる。文化とは、文化財という物的なものだけではなく文化活動の面もあると考えるが、犬山市の文化をどのようにとらえているのか。近年、文化活動団体の課題として高齢化が進み、会員の減少が進んでいる。文化活動の活性化のため、若い世代の会員（文化活動団体）拡大のための助言がほしい。

田中委員

「財」を保存すること、活かすことも文化活動であるとする。若い世代の会員拡大のために、学校との連携を進めることも検討すべきことである。

滝教育長

文化は一朝一夕でできるものではない、守り受け継ぐことも文化であるとする。若い世代の会員拡大のために、小中学校にも入ってきてほしい。

参加者

文科系の部活動が少ないと感じる。先生の関わり方によって子どもたちの反応も違ってくる。学校の先生にも犬山市の地域を知ってもらい、犬山市の魅力を知ってもらい、子どもの自発的な動きに対して背中を押してほしい。

滝教育長

学校現場にも伝えたい。

参加者

市内の文化財をしっかりと調査してほしい。小学校の授業でやっている内容と、教育委員会が示している内容に乖離がある。楽田城の看板を変えてほしい。

滝教育長

ご指摘いただいたことを受け止めて対応していく。

参加者

英検の受験を再開してほしい。

滝教育長

検討します。

参加者

障がいを持つ子どもにトイレの介助が必要であるが、学校の介助員の方は全日勤務するわけではない。学校には支援員の方もいるが、それぞれ役割が決まっていて対応できない。担任

の先生も多忙で対応できない。なんとかならないか。

滝教育長

学校現場に伝え、対応を考えていく。

参加者

不登校の子どもに対する支援について、学校外での学びを確保するというのがあるが、実際は充実していない。不登校の子どもに対する支援についての教育委員会の考え方は。

滝教育長

学びの場は学校に限定する必要はないと考えるようになってきた。種類の異なる「適応指導教室 ゆうゆう」のような施設をもう1箇所設けて、対応できないかと考えている。

参加者

校則に対する認識について教えてほしい。保護者を交えて話し合いをし、校則づくりができないか。

田中委員

校則は無くせばいいと考えている。ルールは守るべきものではなく、つくるべきものである。校則は1からつくれば良いと考えている。

小倉委員

親からの視点が足りなかったと感じている。校則が必要であるなら、皆が納得して作り上げて、子ども達も責任と義務を果たしていければよいと考える。

滝教育長

あれもダメ、これもダメではなく、これもいい、あれもいいとし、規制を緩める方向で動いている。

5 閉会挨拶

滝教育長より